

して優れた評価もなかった。但し、温泉卵では差異はなく、受容れ易い調理法となっている。

又、食感ではどの調理法でも受容られている。

パネラーは20名で、男女比率、年代構成はバランスをとったが、今後も、繰り返し食味官能検査を行っていく。

### ③飼料用米を利用した畜産物の普及活動

#### A. イベント開催

イベント：①岐阜県畜産フェア（平成20年8月23・24日）

②岐阜県農業フェスティバル（平成20年10月25・26日）

実施方法：飼料米たまごを温泉卵とゆで卵に加工し、イベント参加者に「おこめのたまご」として試食してもらい、飼料米たまごの意義、取組みについて説明し、アンケートに答えていただいた。両イベント参加者から1,560名の回答をいただいた。会場には飼料米サンプル等展示。



6万名参加の農業フェスティバル



試食コーナー

#### B. 飼料米たまごのアンケート

アンケートは12項目。回答者の年齢構成は30代、40代、50代、60代がほぼ均等になり、男女比率は女性63%であった。

卵黄色の白さについては、説明があれば美味しそう又は普通と理解し、88%の回答者が購入すると答えた。

価格差は30～50円高でも買う人の率は78%に達した。食料の海外依存についての不安を感じる人は85%と圧倒的に多く、食の安全性を基準としている。従って飼料米とその生産物の利用拡大は進めるべきであるという意見が77%と圧倒的であった。

## 取組によってわかったこと

### 1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

■岐阜県は稲ワラ生産と同時に飼料米をつくる飼料稲栽培が中心であり、規模も大きく、一箇所でも大量の飼料米供給が可能となってきた。

■耕種農家の農薬使用は初期の除草剤に限り、粳米で家畜に給与して問題のない方法をとっている。

■追肥をした生産者の収量は多くなった。

■飼料米の取扱い総量は628t（粳米）で、集荷、輸送、保管の物流について大変心配したが、JAの協力、大型トラックのフル活用、自家配合養鶏場の保管施設を活用して乗り切った。

■量が多くなり、梅雨や夏場の保管、流通を乗り切る方法

のひとつとして、低温営業冷蔵庫を一部使用しているが大変なコストアップになっている。

■地産地消の飼料生産と利用を考えた場合、主食用米の保管施設や技術を流用することによって品質、物量ともに安定した供給体制が望まれる。

■当面、流通、保管について畜産農家が取り組むとして、この面のコストアップはトウモロコシ価格と比べ著しく不利になる。畜産農家の利用推進体制を構築して、助成も含めてしっかりとバックアップしてほしい。

### 2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

■鶏には粳米を給与しても十分に消化する筋胃があり、飼料米を加工コストをかけないで安価に、長期保存して使える粳米給与法は養鶏家にとって大きな励みになることが実証できた。

■粳米20%、60%等の給与試験で、産卵率低下や成績への低下減少は一切なく、逆に、まだ解明されていない粳米の栄養価を持っているため良い成績を出している。従って、飼料コストの絞込みが可能と思われる。

■脂肪酸組成はお米の油脂成分と関連していると思われる。日本人に適したより健康的な卵となっている。又、卵黄色素の由来等についてもより啓発が必要と思う。粳米飼料によるコレステロール値低下卵は年配者には良い。

■食味官能検査では、従来の卵に馴れた人には違和感があるものと思われる。飼料米卵の売り方に工夫が必要と感じた。

### 3. 普及活動について、次のことがわかりました。

■日本の食料自給率が低いこと、日本に溢れている海外で生産された食品の安全性についてよく問題となっている、という認識は日本の消費者にあるが、休耕田や耕作放棄地、畜産飼料のほとんどが海外依存等々の日本の農業と食が抱える問題についての詳しい理解は薄い。

■畜産フェアや農業フェスティバルに来た日本の消費者にこれらの点を訴え、説明することにより少しでも理解者を増やせたことは成果と思う。

■飼料米の畜産への活用が、日本の稲作農家へも、地域で頑張る畜産農家へも大きな福音であり、自給率を高め、安全性を高める食料生産の最良の方法であることを、より多くの一般の消費者に理解と協力を得て行くことが大切と感じた。

■畜産農家の生産する畜産物を生協やスーパー等の小売段階でより理解者を増やし、価格面のハンディを少しでも解消することが大切と思う。

■粳米給与の飼料米たまごは、独特の特色を持っていることが分かったので日本人に合う、より健康志向のたまごとしてPRしていきたい。

### 4. 今後の飼料用米の取組予定などについて

■引き続き、飼料用米給与実証データの収集を行い、需要に見合った飼料用米の増産を推進するとともに、取引や流通のあり方を検討します。

また、飼料用米を利用したたまご等のPRを行います。なお、岐阜県では次のような取組が計画されています。